

令和3年度 第2回沖縄県薬事審議会 議事要旨

1 日 時：令和4年1月27日（木）15：00～16：00

2 場 所：沖縄県教職員共済会館 八汐荘 4階中会議室A
WEB併用によるハイブリッド開催

3 出席者：8名
沖縄県薬事審議会委員

会 長 前濱 朋子（一般社団法人沖縄県薬剤師会会長）
委 員 中村 克徳（琉球大学医学部附属病院薬剤部部長）
委 員 眞喜志 早江子（一般社団法人沖縄県歯科医師会理事）
委 員 平良 孝美（公益社団法人沖縄県看護協会会長）
委 員 村田 美智子（一般社団法人沖縄県薬剤師会女性部会理事）
委 員 伊集院 良憲（沖縄県医薬品卸業協会会長）
委 員 米村 一成（一般社団法人沖縄県医薬品登録販売者協会会長）
委 員 波平 道子（一般社団法人沖縄県婦人連合会理事）

4 審議会次第

・議事

- （1）地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局の認定状況について
- （2）令和2年度医薬品販売制度実態把握調査結果報告について
- （3）新型コロナウイルス感染症における経口抗ウイルス薬の医療機関及び薬局への配分について
- （4）その他

5 会議内容等

【議事1】地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局の認定状況について

・事務局：地域連携薬局の申請があった2薬局について認定に至った概要を報告。専門医療機関連携薬局の申請はなかったことを報告。12月末時点の全国及び沖縄県内の認定状況について資料を用いて説明。

・村田委員：申請の適合表の項目について、全て満たしていない薬局も見られるが、それでよいのか。

事務局：申請の項目で、全て満たしている必要があるものと、項目内で1つでも満たしていればいいものがあるため、内容によって異なる。認定された薬局については、申請内容に不備はなかった。

・波平委員：地域連携薬局とは、地域の病院との連携が必要なのか。

事務局：地域の病院との連携だけでなく、利用者が係っている病院や診療所、かかりつけ医との連携が重要になる。

村田委員：地域連携薬局は、利用者に関する状況報告書を病院へ提出することも要件の一つとなっている。

【議事2】令和2年度医薬品販売制度実態把握調査結果報告について

・事務局：沖縄県内の調査結果の内容を説明。来年度以降、店舗販売業者等に「濫用等のおそれのある医薬品の販売」について県としても販売業者に対してしっかりした指導を行っていく方針である。

・眞喜志委員：この調査の対象となっている県内の薬局、店舗販売業者の数

事務局：薬局は、3店舗。店舗販売業者は、53店舗となっている。

・村田委員：平成30年度の調査結果で、濫用等のおそれのある医薬品を複数購入しようとしたときの対応で適切であった割合が他の年度より悪い結果であるが原因は把握しているか。

事務局：事務局では原因は把握していない。厚労省に確認して回答する。

→後日、厚労省に確認したところ「例年と同じ調査方法で実施しており、思い当たる原因は特になし」とのことだった。

【議事3】新型コロナウイルス感染症における経口抗ウイルス薬の医療機関及び薬局への配分について

・事務局：特例承認された経口抗ウイルス薬の薬局の配備状況について説明。

・会長：各薬局の在庫の数が限られており、薬局間の借用等もできないため、薬剤師会も県と情報共有を行いながら医療機関からの処方について速やかに患者さんに薬が届けられるように対応を行っている。

【議事4】その他

特に審議事項なし